

3.国際学科

現代の日本社会は、政治・経済のグローバル展開に参画しているだけでなく、訪日観光客や在日外国人の増加をはじめ、多様なバックグラウンドを持つ人々との協働・共生が目指されるものとなっている。このような社会状況において、国際学科は「持続可能な社会、誰一人取り残さない社会を築くための一助となる」ことを教育目標として、社会課題を的確に理解・分析するための高度な専門知識や、国内外の諸地域の人々と協調しながら問題解決に取り組む能力、多文化共生社会の構築に向けて行動する意欲、そして英語やその他の外国語をコミュニケーションの道具として活用できるスキルを有する人材の育成を目指している。本学科の教職課程は、このような学科の教育理念と目標のもとで「社会科」と「外国語科(英語)」の両教職課程を設置し、世界の文化や歴史の知識を有する英語科教員、および高度な語学能力と異文化への深い理解力を有する社会科教員の育成を図るとともに、「多様な価値観や習慣をもつ人々との共生社会の創造に向けて、主体的に行動を取ることができる人」という現代社会に求められる教員像を掲げて養成することを目的とする。その具現化のため、カリキュラムも、国際関係関連科目(「国際関係論」「国際協力論」「国際関係史」「国際法」など)、異文化理解関連科目(「多文化社会論」「多様性の社会思想」「異文化間コミュニケーション入門」「グローバル時代のコミュニケーション」「グローバル化と文化」など)、外国語コミュニケーション科目(「通訳トレーニング」「翻訳トレーニング」「Education around the World」「English for Intercultural Understanding」など)、エリアスタディーズ科目(「現代の北米」「現代のヨーロッパ・EU」「現代のアジア」「現代のオセアニア」など)がバランスよく設置されており、社会科・英語科に関連する多角的な学びができるように計画されている。現代社会を理解する社会的な知識と、英語を中心とする外国語運用能力は、一般的にはそれぞれ別の学科で養成される傾向があるが、国際学科は、日本や世界の社会的課題を深く理解するためのコミュニケーションスキルとしての外国語運用能力、および外国語コミュニケーション能力を基盤とした多文化理解や多様な他者との協働力など、その両輪の力が有機的に機能することで、より広い視点とスキルを獲得できるように教育課程を編成し、教員の養成を計画している。このような多様な学びの軸を明確化し実現するために、国際学科では「国際コミュニケーションコース」「多文化共生コース」「国際協力コース」という3コースを設けており、「国際コミュニケーションコース」では英語教員、「多文化共生コース」「国際協力コース」では社会科教員の養成を想定した科目編成がなされ、教員養成を計画している。指導教員も、国際関係学や国際社会学などの社会科学領域の専門家、および英語教育やコミュニケーションの専門家を擁しており、社会科・英語科それぞれの教員を目指す学生に的確な助言を行う指導体制も整っている。